

はじめに

「建学の精神」には、本学の教育目標が記載されている。すなわち「良医を育てる」、「知識と技術をきわめる」、「社会に貢献する」の三つであり、これに基づき、「良き医療者」を育成することが本学に求められている。学生諸君は6年間の在学中に、1) 自学自習の習慣、2) 問題解決能力、3) 知識・技術の習得、4) 医師として好ましい態度・価値観、を習得し、「良き医療者」となる基礎を作してほしい。

本学は「モデル・コア・カリキュラム」に対応したカリキュラム編成を行ってきた。「モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改定版」は「多様なニーズに対応できる医師の養成」を掲げている。状況に応じて、医療安全、チーム医療、地域医療などのニーズに対応できる実践的臨床能力を卒業時に身につけていなければならない。加えて、全国の医学部では、国際基準に沿った医学教育分野別評価に対応した講義、臨床実習が求められている。本学では令和3年度からカリキュラムを改編し、初年次教育に医学を学ぶための基礎知識を涵養するプログラムを取り入れ、「診療参加型臨床実習」(CCS)を第4学年から実施するなどの方策をとっている。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行や、超高齢化による多疾患併用患者の増加、近年の人工知能等による医療技術の高度化などを踏まえ、「モデル・コア・カリキュラム」は令和4年度にも改定された。「モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改定版」では「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を掲げている。令和4年度改定版で新たに加わった学修事項は、第1学年では令和6年度から、第2学年から第6学年では令和7年度から学習要項に盛り込まれる。

「診療参加型臨床実習」(CCS)では正確な知識と技術が必要である。まずは第1～3学年次のユニットでの学修成果を、第3学年次の「共用試験」(CBT、Pre-CC OSCE)で発揮できるように知識及び技術を定着させてほしい。第4学年から開始されるCCSでは、Student Doctorとしてより実践的な知識と技術を学び、「知識と技術をきわめる」ことを期待している。

令和7年度より、「臨床実習後OSCE」(Post-CC OSCE)が、共用試験実施評価機構主催の国家試験となる予定である。これは、臨床実習終了後の知識と技術・態度を評価するもので、第6学年に実施される。知識の「医師国家試験」、実技の「Post-CC OSCE」ともに合格できるよう成長してほしい。

この学習要項には令和6年度の一般目標、行動目標、学習内容が明示してある。カリキュラムはあくまで学習目標の達成のための行動計画書であり、学生自らの学習意欲と教員の情熱があってはじめて目標が達成される。このカリキュラムが有効に機能し、学生諸君が6年間の課程を終了後、立派な「良医」として羽ばたき、「社会に貢献する」することを期待してやまない。

令和6年4月
医 学 部 長